

事業事前評価表

国際協力機構中東・欧州部中東第二課

1. 案件名 (国名)

国名：パレスチナ暫定自治政府

案件名：ジェリコ・ヒシャム宮殿遺跡大浴場保護シェルター建設及び展示計画

Project for the Construction of the Protective Shelter and the Presentation of the Great Bath at Hisham' s Palace, Jericho

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における観光セクターの現状と課題

パレスチナ自治区には観光資源となりうる文化遺産が多数存在するが、文化遺産を保護・活用するための資金や人材の不足のため、観光資源として十分生かされるに至っていない。パレスチナ暫定自治政府は「国家開発計画 (National Development Plan 2014-2016)」で観光開発を優先課題の一つとして掲げており、文化遺産の保護・周辺環境の整備が必要とされている。

ジェリコにあるヒシャム宮殿遺跡はウマイヤ朝時代 (8 世紀) の初期イスラム建築の代表的な文化遺産で、内外から多くの来訪者が訪れる観光名所となっている。ここには単体では中東最大 (約 825 m²) と言われる大浴場のモザイク床があるが、保護のためフェルト状の布と砂で覆われており鑑賞できない。

近年、ヒシャム宮殿遺跡への訪問客が増加するにつれ、来訪者がモザイク床を見るために、許可なく砂を掘り起こす事例も報告されている。歴史的価値の高いモザイク床を劣化や損傷から守るため、適切な保護設備の整備が急務とされている。同時に、より多くの来訪者を惹きつけるため、モザイク床を展示できる適切な施設を整備し、ヒシャム宮殿遺跡の観光資源としての価値を高めることが求められている。

かかる状況を受け、パレスチナ暫定自治政府は我が国に対し、ジェリコ・ヒシャム宮殿遺跡大浴場保護シェルター建設及び展示計画 (以下、「本事業」という。) を要請した。

(2) 当該国における観光セクターの開発政策における本事業の位置づけ及び必要性

本事業により、パレスチナ暫定自治政府が観光資源として重要視するヒシャム宮殿遺跡のモザイク床を適切に保護・展示できる施設が整備され、ジェリコの観光振興に寄与することが期待できるため、事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

(3) 観光セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国の対パレスチナ自治区国別援助方針 (2012 年 12 月) では、重点分野の一つ「持続的な経済成長の促進」の中で観光開発に取り組むこととしており、本事業は同方針に合致する。なお、本事業は「平和と繁栄の回廊」構想の下、観光分野での域内の協力を促す「観光回廊」イニシアティブの一環をなすものと位置付けられる。

(4) 他の援助機関の対応

・ USAID (2006-08、2014) : ヒシャム宮殿遺跡におけるミュージアム、トイレ、アクセ

ス道路、サイト内の説明板と鑑賞通路の整備

- ・チェコ共和国/UNESCO（2006-11）：ヒシャム宮殿遺跡大浴場におけるシェルター計画策定（実現せず）
- ・リヨン市（2011）：ヒシャム宮殿遺跡における照明整備

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、ジェリコ・ヒシャム宮殿遺跡において、大浴場モザイク床の保護・展示施設を整備することにより、歴史価値の高い文化遺産の保護と公開の両立を図り、もって宮殿遺跡への観光客の誘致や地域の観光振興に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区/ジェリコ市

(3) 事業概要

1) 建築工事、調達機器等の内容

モザイク床の保護・展示施設整備（約 2,443 m²）

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、モザイク保存環境のモニタリング、メンテナンスにかかる技術指導

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 11.89 億円（概算協力額（日本側）：11.83 億円、パレスチナ暫定自治政府側：6 百万円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2016 年 4 月～2018 年 7 月を予定（計 28 ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

観光遺跡庁（Ministry of Tourism and Antiquities：以下、「MOTA」という。）

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 A B C FI

② カテゴリ分類の根拠

本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、セクター特性、事業特性、及び地域特性に鑑みて、環境への望ましくない影響が重大でないと判断されるため。

③ 環境許認可

本事業に係る初期環境調査（IEE）報告書は、2016 年 2 月にパレスチナ暫定自治政府環境保全庁（Environmental Quality Authority：EQA）により承認済み。

④ 汚染対策

工事中の影響のうち、大気質については重機と工事用車両の定常的な維持管理を行い、土壌汚染については油・ペンキ漏れ浸透防止シートを使用し、振動についてはモザイク床の損傷現況図の作成による慎重な工事計画の作成と実施を行う等の対策により、それぞれ影響を最小化する。廃棄物については廃材・廃棄物の分別・管理・撤収計画の作成及び実施を行うことで工事中及び供用後の影響を最小化する。

⑤ 自然環境面

事業対象地域である史跡は、実施機関である MOTA によって史跡公園として管理されているが、国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。

⑥ 社会環境面

本事業は、MOTA が史跡公園として管理する敷地内で実施されることから、用地取得及び住民移転を伴わない。文化財については、工事中に史跡内のモザイクを露出させない等の風化防止対策により負の影響を防ぐ。景観については、有識者委員会や現地ステークホルダー協議会を通じて合意された保護・展示施設整備計画を MOTA が実施することで、望ましくない影響を最小化する。

⑦ その他・モニタリング

本事業は、MOTA 及び施工業者が、工事中の大気質、廃棄物、土壌汚染、振動等についてモニタリングし、供用後は廃棄物等についてモニタリングする。また MOTA が工事中及び供用後の史跡の文化財や景観への影響についてモニタリングする。

2) 貧困削減促進

特になし

3) 社会開発促進（ジェンダーの視点、エイズ等感染症対策、参加型開発、障害者配慮等）

特になし

(8) 他事業、ドナー等との連携・役割分担

他機関による実施中の案件で本事業に関連するものは特になし。

(9) その他特記事項

特になし

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

治安情勢が安定し続けること。

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

パレスチナ暫定自治政府の関連政策に大きな変更がないこと。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

対パレスチナ無償資金協力「第一次西岸北部地区上水道整備計画」（2000 年 E/N 署名）では、事業完了後、建設された施設の維持管理のための財源と技術の確保、並びに体制の構築が重要と確認された。

(2) 本事業への教訓

本事業では、モザイクを適切に保存するために施設の維持管理が重要になることから、パレスチナ側にて維持管理に必要な予算と体制が確保されるよう、調査時に合意するとともに、ソフトコンポーネントを通じて技術的指導を行う。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

パレスチナ暫定自治政府が観光資源として重要視するヒシャム宮殿遺跡のモザイク床を適切に保護することができる。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2014年実績)	目標値(2021年) 【事業完成3年後】
保護され展示に供されるヒシャム宮殿遺跡大浴場のモザイク面積(m ²)	30	825
ヒシャム宮殿遺跡への年間来訪者数(人)	40,845	68,120

注) ヒシャム宮殿遺跡への年間来訪者数の目標値(2021年)については、治安状況の悪化等も考慮し、ジェリコ市への観光客数における同遺跡への訪問者の割合に基づき算出。

2) 定性的効果

- ・ヒシャム宮殿遺跡大浴場のモザイク床が劣化や損傷から保護された状態で展示される。
- ・ヒシャム宮殿遺跡への来訪者の満足度が向上する。
- ・ジェリコ市観光セクターの付加価値が向上する。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6. (2) 1) のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

- ・事後評価 事業完成3年後

以 上